

2022 年度3月期卒業式 式辞

2022年度3月期卒業の学部生の皆さん、そして大学院生の皆さん、ご家族、ご関係の皆さま、本日はご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんはもちろんのこと、今日まで永きにわたり守り育て、支えてこられたご家族・ご関係の皆さまのお喜びもひとしおのことと存じます。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

本日卒業あるいは修了される皆さんは、かつてない環境の中で学生生活を送ってこられました。それだけに、特別な思いをもってこの日を迎えられるのではないかと思います。コロナ禍のパンデミックが本格的に日本を襲った2020年4月、キャンパスが閉鎖されるという異例の事態が起きました。学生の皆さんも私たち教員も大学への入構ができなくなり、今後、どうすれば皆さんの授業や研究を止めることなく続けられるのか、教職員全員が悩み、試行錯誤の中ではありますが、早い段階でオンラインによる授業を始めることとなりました。

皆さんにとっては、大きな戸惑いの中、オンライン授業に参加する日々が続いたことと思います。時にはその理不尽な状況に苦しみ、このような環境で学修成果を出すことができるのか、単位を取ることができるのかなど、不安に苛まれたこともあったでしょう。課外活動も停止され、友人とも会うことができないなど、孤独に耐えながら苦しい1年間を過ごされたのではないのでしょうか。私たち教職員も、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぎ、大切な命を守ることが最大の使命と考えてのやむを得ぬ措置であったとはいえ、学生の皆さんには辛い思いをさせてしまい、大変申し訳なかったと思っております。

2021年度からは対面による授業が始まりました。授業再開にあたっては、感染対策を十分に行うことを前提に、各講義室の換気システムを強化したり、IT 設備を充実させ、オンラインあるいはハイブリッド方式の授業をいつでも行うことができるような環境を整備したりするなど、さまざまな対策を施しました。多人数クラスはオンライン授業とせざるを得ませんでした。実験や実習も含め、可能な限り対面授業とするよう努め、コロナ禍にあっても、万全の教育を行うことができるよう、教職員全員が一丸となって、その時々に行えることを全力で行ってまいりました。皆さんも、この状況にどう立ち向かったらよいのか、感染予防のためにはどのようにしたらよいのか、各々が考え、行動されたことと思います。

新型コロナウイルスが世界中に急速に蔓延し始めた当初は、目に見えない未知のウイルスに関するさまざまな情報が飛び交う中で、政府や企業、そして私たち教育機関も判断を迫られる場面が多々ありました。しかし、医療従事者をはじめとする多くの人たちが、この未曾有の事態に屈することなく、尊厳ある命を守るために献身的に感染者の治療に奮闘されたり、感染拡大防止策に努められたりするなど、ご自身の健康や生活を顧みず、日夜業務にあたられる姿に心を打たれ、その奮闘に応えるべくさまざまな対応を続けることができたのではないかと思います。

忘れてはならないのは、全世界が一丸となって、この未知のウイルスによる苦難を乗り越え、協力しながら新たな未来を生み出す努力を行ってきたということです。世界中の人びとに多大なる影響と不安を与えたこのパンデミックの逆境を、ネガティブな感情を持って嘆き悲しむだけでなく、人類全体が「時代を切り拓く力」をつけ、新たなステージに立つきっかけとして捉えなおすことが必要です。

ぜひ、皆さんも改めてそのような観点で今の社会や自身を振り返る機会を持ってください。それは、私たち人間が持つ「たくましい知性」の表れだからです。突然訪れた特異な状況の中で、自分が大学における教育を十分に享受するにはどうしたらよいか、自分の進むべき道はどのように探せばよいか、一人ひとりが考え抜いた結果、皆さんは今日こうして卒業の日を迎えることができました。それは、皆さんが「たくましい知性」を働かせ、努力されてきた成果であり、その努力を心より称賛いたします。卒業した後も、神奈川大学で培った「たくましい知性」を生かしてさまざまな場で活躍されていくことを期待しています。

さて、神奈川大学は、2028年の創立100周年に向けた将来像を次のように定めています。「海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による21世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します」。

横浜は、日本の近代化とともに世界に開かれた都市として日本の先端地域を形成してきました。160年以上前から西洋や中国など諸外国の人びとが移り住み、各国の法律・経済などのシステム、モノそして文化などをいち早く取り入れた結果、早くから国際的な都市として発展してきたのです。

現在も、160 を超える国および地域から 10 万人を超える人々が多様な価値観をもってここ横浜で生活しています。皆さんの中にも、学生時代に外国の方と交流したことがある人は少なくないでしょうし、卒業後は一緒に仕事をすることもあるかもしれません。忘れていただきたいのは、日本的とも言える均質的な価値観で物事を判断するのではなく、さまざまな国や地域の多様な価値観を学び、よく理解した上で、その人びとと共存することが重要だということです。

このことは、国や地域との関係にとどまりません。年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好などさまざまな背景を持つ人びとによって、社会は形成されています。そのような社会において、多様性を尊重し、一人ひとりの人権と自由を守ることは当然のこととされます。皆さんの生活や仕事において、このダイバーシティの考え方は不可欠であることを改めて心に留めてください。なぜなら、少子高齢化などによる労働力の減少、価値観の多様化や人材の流動性の高まり、さらにビジネスのグローバル化など、社会環境の変化は企業の経営などにも大きく関わっているからです。例えば、現在多くの企業では、育児休業や介護休業、フレックスタイム制、テレワークなどの柔軟なワークスタイルが採用され、障がいを持つ人の雇用も増加しています。LGBTQ に代表される「多様な性」への理解を深め、受け入れることも徐々に広がっています。

神奈川大学は、2018 年に「ダイバーシティ宣言」を公表しましたが、ダイバーシティへの配慮は、だれもが孤立しないコミュニティの形成につながり、一人ひとりが積極的に物事に参加する機会を創出し、個人の能力を最大限に発揮できる環境づくりに直結します。

本学は、多様な価値観の共存する時代に、多様な人びとの交流と文化を融和させ、大学で学んだ知識を実践として理解し、教育と研究を融合させることによって 21 世紀における「真の実学」を実現しようとしています。世界に目を向ければ、この 1 年だけを見ても、ロシアによるウクライナ侵攻などの国境をめぐる問題、トルコ・シリアにおける大地震などの災害、アメリカにおける銀行の経営破綻など、解決困難な課題が山積しています。

皆さんには、地域や社会そして地球規模で発生するさまざまな課題を他人事として捉えることなく、本学で身につけた「真の実学」を忘れずに、自分の頭で考え、その解決に寄与してほしいと願っています。

最後に、皆さんが本学で築き上げてきた人と人との繋がりは、卒業した後もかけがえのない絆となるでしょう。どうか母校である神奈川大学を誇りに思い、23万人を越える神奈川大学の卒業生の一人として、本学で身につけた知識や人脈など、さまざまな能力を活かし、社会で活躍してください。

そして、どのような時でも、母校を訪れてください。神奈川大学はいつでも皆さんを歓迎いたします。

皆さんの今後の幸せと、限りない未来を祈念しまして、式辞といたします。

2023年3月22日

神奈川大学長
小熊 誠